

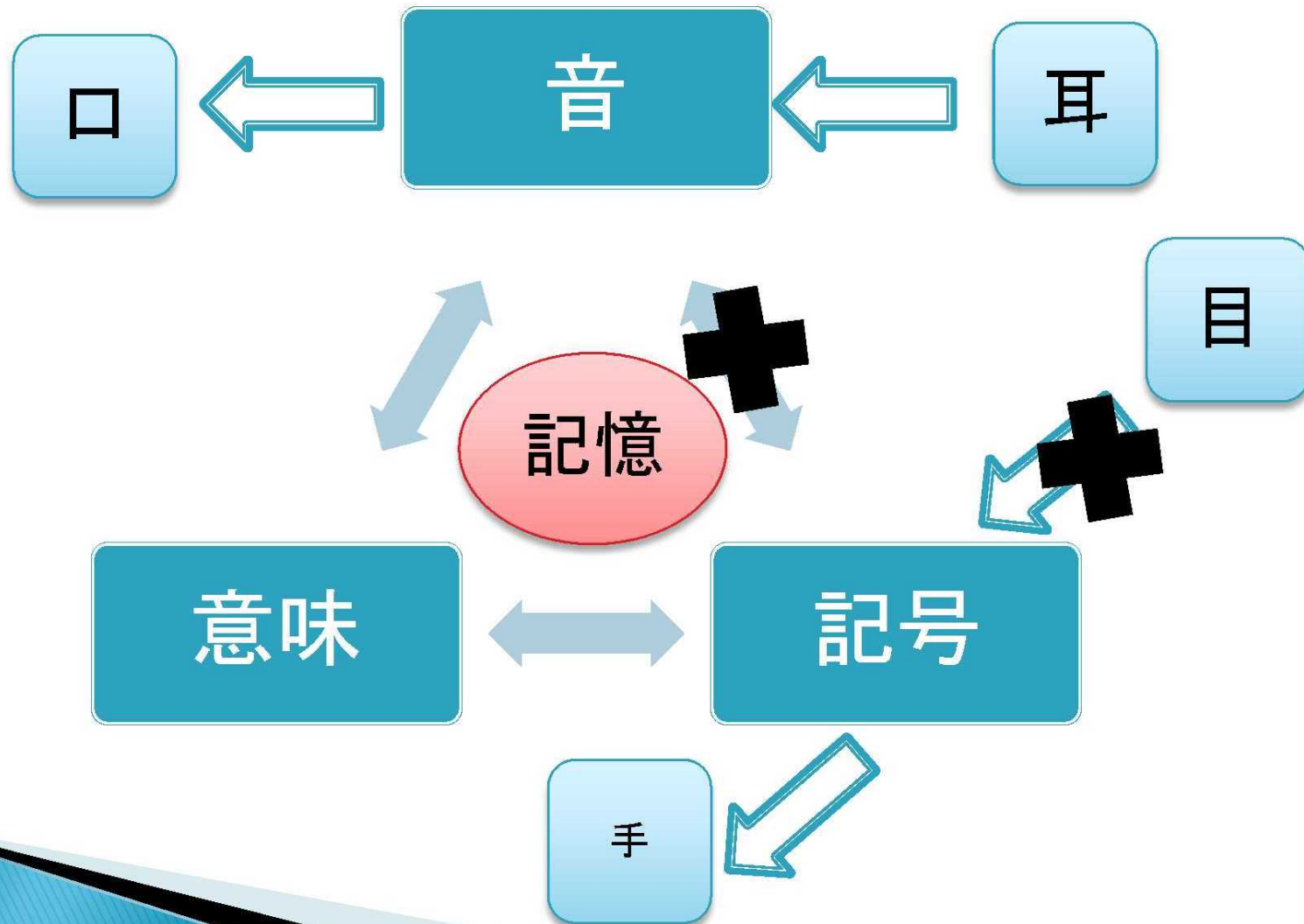
音声教材BEAM

認定NPO法人エッジ

BEAMの目的



ディスレクシア 読みの速さ 流暢さ 正確さに困難



◆「文字の読み」にかかる負担をなくし、
直接内容理解に繋がられることがねら
いである

◆勿論、文字を見ながら聞くこともでき、
文字の読みの支援にもつながる

BEAMの特徴



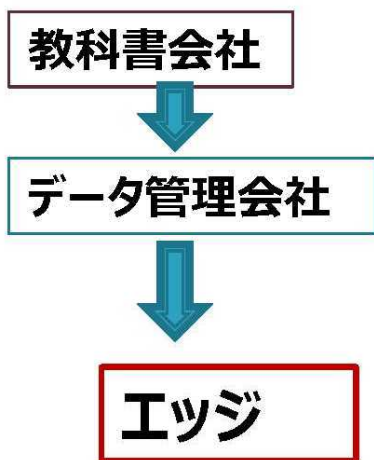
特徴 1 教科書の本文を中心に音声化



内容が一貫性のあるストーリーとして伝わるために、いわゆる本文以外の文字表示（例：挿絵の解説文、年表、地図の地名、吹きだしの言葉等）は、削除してある。

国語：物語、説明文、手引き等を一つの単位としている。
社会：基本的に見開2ページ分の、小タイトル単位。

気をつけていること



「正しい日本語」が
耳から入るよう作
製

- ① 送られてきたテキストデータから、音声化する台本を作る（不要な部分の削除、適切な休止挿入、順番の入れ替え等）
- ② 音声化する（人工音声プログラム声の職人）
- ③ 音声化されたものを全部聞いて、正しいかどうかチェックする（読み方、アクセント、イントネーション）
- ④ チェックした箇所を修正する
- ⑤ 修正箇所を再度聞き、チェックする（誤りがあれば、またここで修正へ）
- ⑥ 最終チェック

特徴 2 音声のみの教材

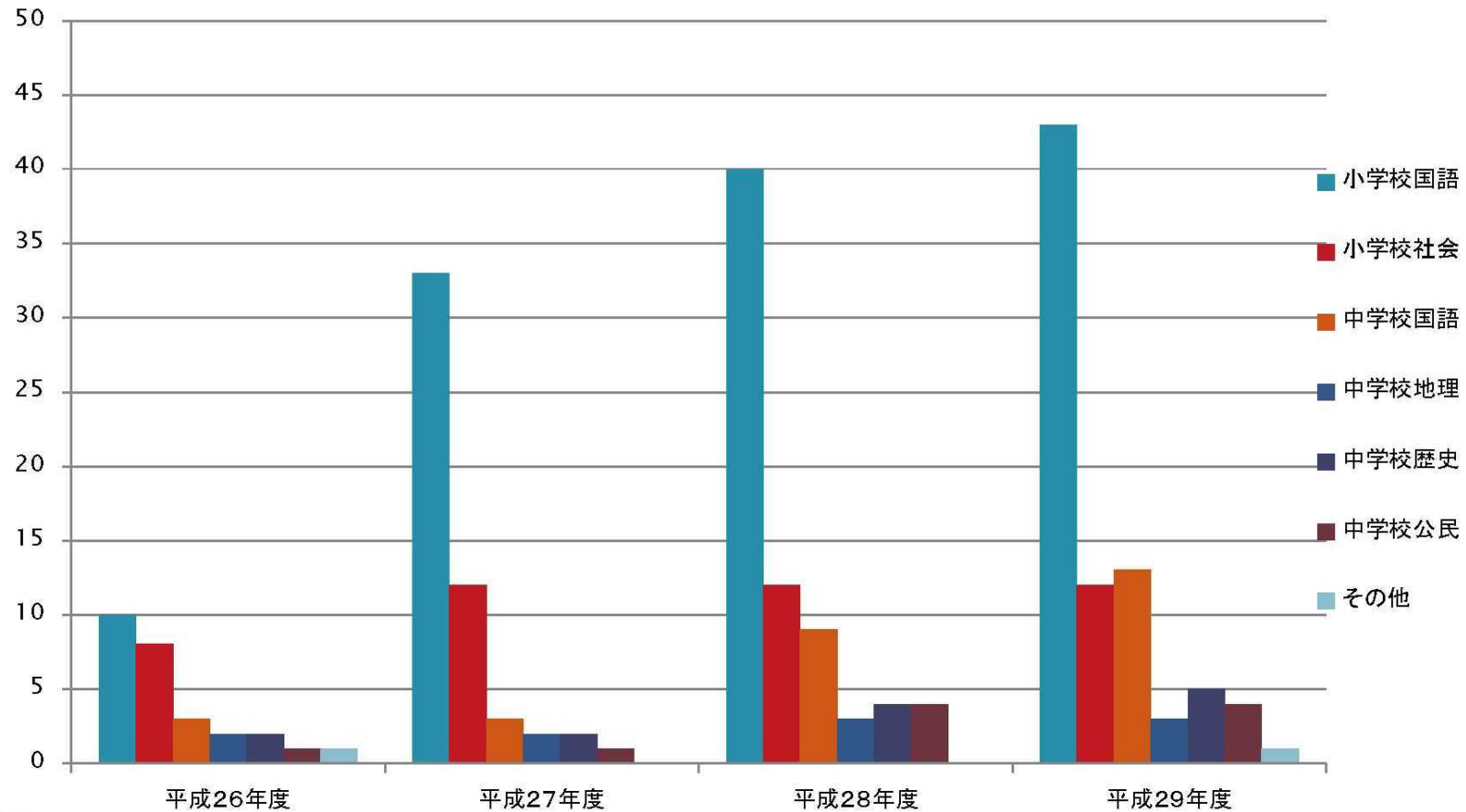
- ◆人間の音声を分析した上で作成する人工音声プログラムを使用
- ◆MP3の形式で、ダウンロードできる



今までの歩み

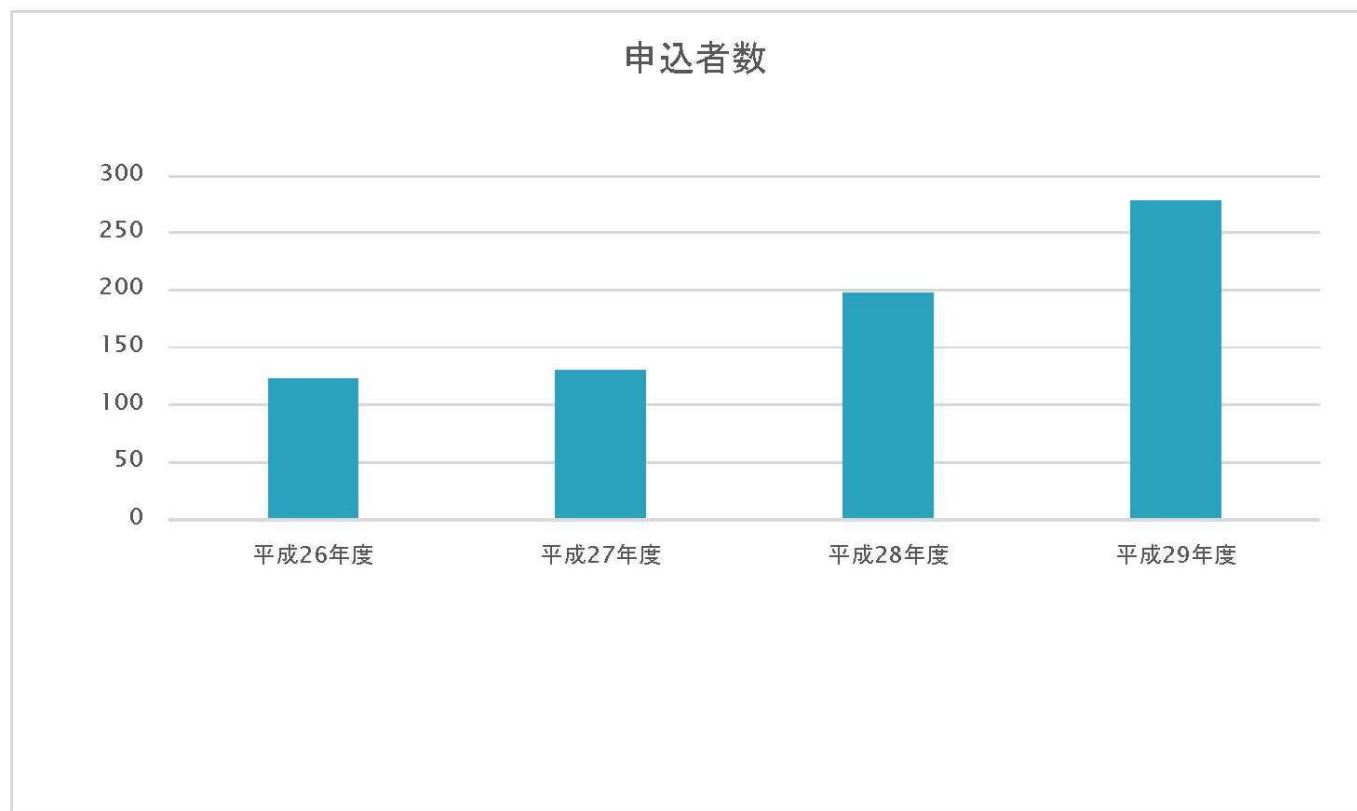


作製教科書点数の推移



平成29年度 最終 81冊

申込者数の推移



平成29年度最終 3月時点 279件

どのように活用されているか

【家庭学習で】

ボイスレコーダーで1.3倍速にし、手元の教科書と自分をつなぐものとして活用している。

主に予習用として、パソコンにダウンロードし、家庭での夜の学習で使っている。大変助かっている・・・等々

【通常の学級で：私立中学校】

社会の学習開始時に、必要な生徒が音声教材を使用。

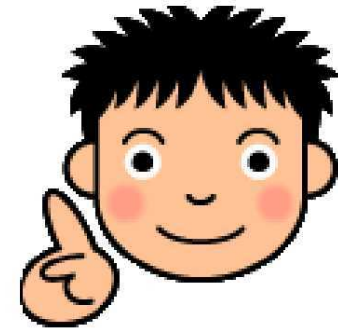
多動傾向の生徒が集中して参加

私語が多い生徒にも授業に関係ある発言がでた

開始時の活用でクールダウン効果・集中力の向上

確認テスト正答率の変化向上・・・等々

どのように活用されているか



【通級指導教室】

文字を見たくないほど苦手な児童が、BEAMで教科書の内容を知ることにより、「どんな話か、内容がわかって安心した。家でも聞いてみたい」等の意欲を示す。

【特別支援学校】

文字から情報が入りにくいという特性の児童に、社会科の時間に活用すると、内容を理解し、興味も持つようになってきた。

今年度の 取り組み



今年度の取り組み①

作成点数（8月現在） 84冊

小学校国語	4社	43冊
小学校社会	2社	12冊
中学校国語	4社	14冊
中学校地理	3社	3冊
中学校歴史	5社	5冊
中学校公民	4社	4冊
小学校道徳	1社	3冊

今年度の取り組み②

申込者数（8月現在）

160名

・保護者	115名
・学校	16校
・教員	7名
・学校以外の支援者	11名
・本人	10名
・教育委員会	1件

今年度の取り組み③

mp3という特徴を生かした活用促進



電子辞書 音声ペン
データはマイクロSDカードにダウンロード



音声ペンの普及推進

6月にモニターを募集し、6名に実際に使ってもらった（学校現場1件） ※音声ペン会社の協力

【寄せられた声】

三分の二が、効果ありと回答

○読んでくれるからスラスラいける。進みがはやい。

前は時間がかかって忘れてしまうことが多かった。（本人談）

○勉強がよくわかるようになった。（本人談）



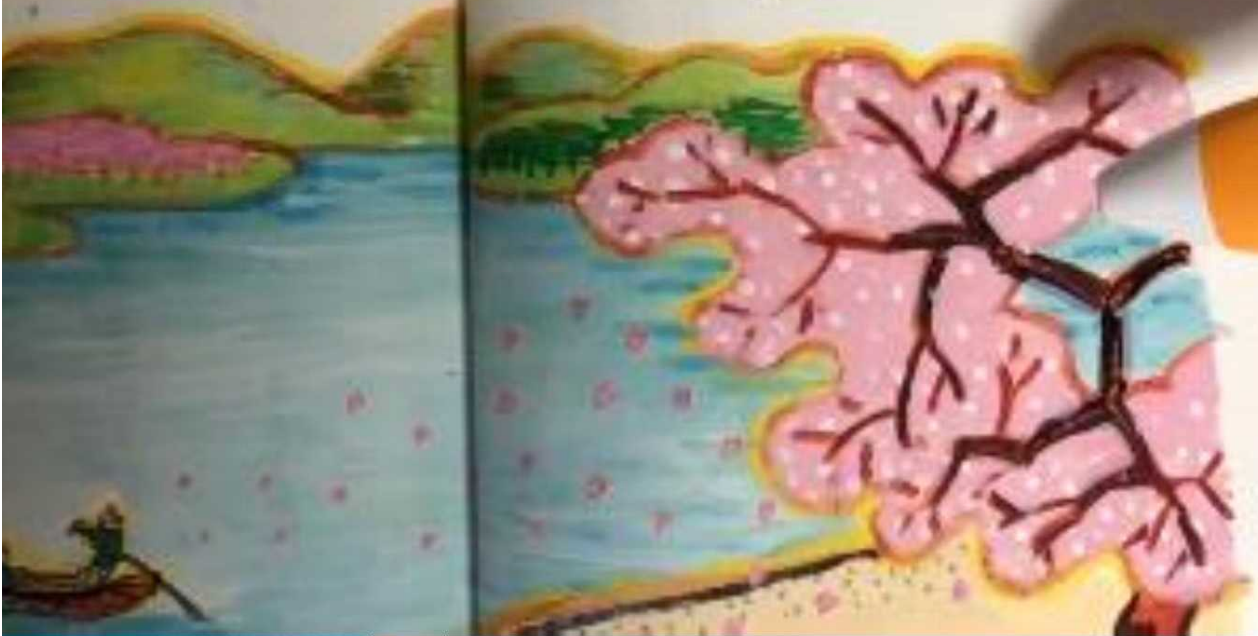
あめ玉

春のあたたかい日のこと、わたし舟に二人の小さな子どもを連れて、た女の歌人が乗りました。

舟が出ようとする時、「おうい、ちよつと待ってくれ」と、土手の向こうから手をふりながら、さむらいが一人走ってきて、舟に飛びこみました。

舟は出ました。

さむらいは舟の真ん中にどっかりすわっていました。ほかほかあたたかいので、そのうちにいねむりを始めました。



あめ玉
あめ玉
あめ玉

今年度の取り組み④

基礎的環境整備に向けての普及推進活動

◆視野に入りたい学校図書館

発達障害を含む障害のある児童生徒や日本語能力に応じた支援を必要とする児童生徒の自立や社会参画に向けた主体的な取組を支援する観点から、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた様々な形態の図書館資料を充実するよう努めることが望ましい。例えば…音声図書…（「学校図書館ガイドライン」平成28年より）

今年度の取り組み④

基礎的環境整備に向けての普及推進活動

◆教育委員会単位での活用

東京小金井市の実践例

○ディスレクシアの理解と支援に関する取り組みを平成28年度から実施

○30年度には、BEAM体験講座を、学校教職員、保護者、支援者対象に実施

○BEAM活用の基礎的環境整備を行う
既存の機器で利用可能（mp3ファイル）
教育用クラウドサービスの活用
教育委員会の申請による事務負担軽減



教室で活用できる環境に整備

○BEAMを活用した授業

ユニバーサルデザインの考え方に基づく

3学年 国語「里山は、未来の風景」

～未来の風景にしたい里山には何がありますか

音声再生時間：8分38秒

児童：教科書にサイドラインを引く

教員、支援者：

文章をすらすら読むことが難しい児童

どこを読んでいるかわからなくなる児童への支援

入手は ホームページから

<http://www.npo-edge.jp/>

mail: beam_edge@npo-edge.jp

ご清聴 ありがとうございます